



新野中

凌雲の志

学校だより2026年(令和8年)2月13日



(No.17)2月13日号

発行 学校長 岩倉 雅彦



『やさしさ』ってどんなもの



「やさしい」という漢字は、「人(にんべん)」の横に「憂(うれ)い」と書きます。「憂い」とは、心配事や悲しみのこと。つまり、漢字の成り立ちから見ると「やさしい人」とは、ただニコニコしている人ではなく、「誰かの悲しみや痛み



に、そっと寄り添える人」のことを指します。しかし、他人の痛みは目に見えません。骨折すればギブスが見えますが、心の傷は誰にも見えないのです。だからこそ、私たちには「想像力」が必要です。



「今、この言葉を投げかけたら、相手はどう感じるだろうか」、「あの子は笑っているけれど、本当は心で泣いているのではないか」

目に見えない相手の心を、自分のことのように必死に想像する。その知的な営みこそが、やさしさの正体です。勉強で知識を身につけることと同じくらい、この「心の想像力」を鍛えることは、みなさんが大人になっていく上で欠かせない力となります。

そしてもう一つ、やさしさには「強さ」が求められます。例えば、教室で誰かがからかわれている時、周りの空気に流されずに「やめよう」と言うこと。あるいは、自分自身がイライラしていても、それを他人にぶつけないで飲み込むこと。これらを実行するには、とてつもない勇気と忍耐がいらします。誰かにやさしくすることは、時に自分が損をするように感じることもあるかもしれません。しかし、勇気を出して示したやさしさは、必ず「信頼」という形になって自分に返ってきます。私たちの口から出る「言葉」は、相手を温めるカイロにもなれば、傷つけるナイフにもなります。どうかかわずかな一言を発する前に、一瞬の想像力を働かせてください。痛みがわかるということは、弱さではなく、人間としての深みです。互いの違いを認め、想像し、支え合う。そんな「強くしなやかなやさしさ」で満ちた学校を、みなさんの手で作ってほしいと願っています。



ご家庭におかれましても、日々の出来事を通じて「本当のやさしさとは何か」を、お子さまと語り合うきっかけにしていいただければ幸いです。



人権講話 中原先生をお招きして



2月6日(金)中原先生をお招きして、3年生を対象に人権講話を行っていただきました。ご自身の経験を通して得たことや、これからの新たな生活に向けて必要となってくる人権感覚について話していただきました。お忙しいなか、ありがとうございました。



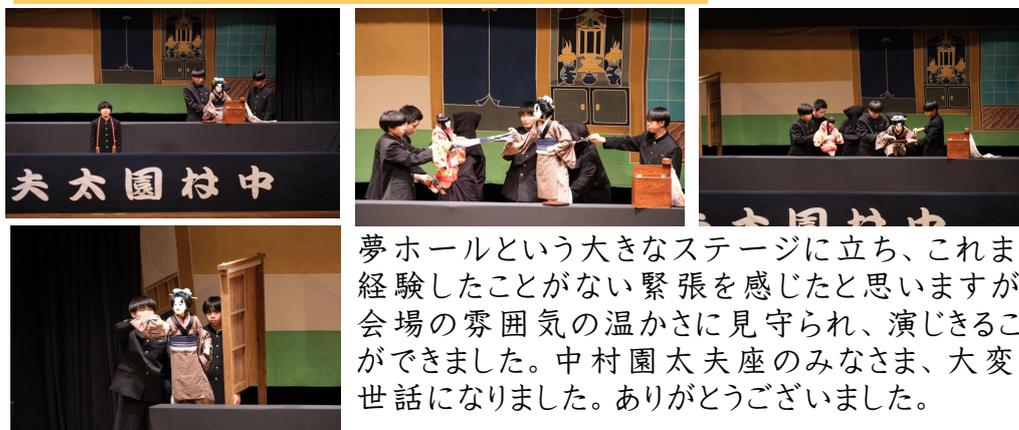
3月の行事予定



1	日	家庭人権学習の日 防災グッズ配布活動 1年
3	火	一般選抜（学力検査）
4	水	一般選抜（面接）
5	木	3年修了式 卒業式予行
6	金	第79回卒業証書授与式
19	木	生徒会専門部会
20	金	春分の日
24	火	修了式 離任式

立春とはいえ、厳しい寒さが続いています。いよいよ3月が迫ってきました。3年生は公立高校一般選抜、そして卒業式と中学校生活の総まとめの時期となりました。限られた時間を有意義に使っていきましょう。また、再びインフルエンザの流行の兆しがありますので、睡眠、食事をしっかりととり、手洗い、換気等予防対策をしていきましょう。

中村園太夫座公演 1.25



夢ホールという大きなステージに立ち、これまで経験したことがない緊張を感じたと思いますが、会場の雰囲気、温かさに見守られ、演じることができました。中村園太夫座のみなさま、大変お世話になりました。ありがとうございました。

『つれづれに……Vol.11』



現在は、受験のお守りなどで知られる「学問の神様」菅原道真（すがわらのみちざね）。平安時代はとても優秀な政治家でした。しかし、その才能を妬（ねた）んだライバルの藤原氏たちの陰謀により、無実の罪を着せられ、京都から遠く離れた九州の太宰府（だざいふ）へ流されることになってしまいます。住み慣れた家を離れる最後の日、道真は大切に育てていた庭の梅の木に向かって、別れを惜しむ有名な和歌を詠みました。

「東風（こち）吹かば にほひおこせよ 梅の花 主（あるじ）なしとて 春な忘れそ」（春を告げる東風が吹いたなら、風に乗せてその香りを私のもとへ届けておくれ。主人がいなくなっても、春が来たことを忘れてはいけないよ）

道真が太宰府へ去ったあと、残された梅の木は主人のことを思うあまり、なんと一夜にして空を飛び、京都から太宰府の道真のもとへ飛んでいったと言われています。これが「飛梅（とびうめ）伝説」です。

この梅の木は、今も太宰府天満宮の本殿の右前に「御神木（ごしんぼく）」として立っています。樹齢1000年を超えるとされ、毎年どの梅よりも先に花を咲かせ、訪れる人々や受験生を静かに見守り続けています。

「飛梅伝説」は、単なる不思議な話としてだけでなく、離れ離れになっても消えることのない「強い心の絆」を伝える物語として、今も多くの人々に愛されています。

♪あの日と同じ様に今鳩が舞う/東風吹けば東風（こち）吹かば君は/何処かで想いおこしてくれるだろうか/太宰府は春いづれにしても春 ♪ 『飛梅』 さだまさし

